平成 30 年度 （2018 年度）

学校関係者評価　報告書

学校法人福岡保健学院
八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人福岡保健学院　八千代リハビリテーション学院の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会による評価結果を記したものである。

令和元年 7 月 31 日

学校長　　今井　基次

副学校長　　豊島　宇茂（学校評価実施責任者）

＜目次＞

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1）学校関係者評価の目的、方針

2）学校関係者評価委員

3）学校関係者評価委員会の開催

4）学校関係者評価の実施方法

2. 学校関係者評価の項目、内容

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ　学校運営

項目Ⅲ　教育活動

項目Ⅳ　学修成果

項目Ⅴ　学生支援

項目Ⅵ　教育環境

項目Ⅶ　学生の受け入れ、

項目Ⅷ　財務

項目Ⅸ　法令等の遵守

項目Ⅹ　社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1）学校関係者評価の目的、方針

① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。

② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。

③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2）学校関係者評価委員

委員氏名	所　属	選出区分
新井　光男	首都大学東京健康福祉学部	学識経験者
市角　雄幸	習志野市市議会議員	地域委員
住田　健司	千葉県立八千代東高等学校	高校委員
小林　誠	児童発達支援事業所まめの木	卒業生委員
斉藤　剛史	成田富里徳洲会病院	企業委員
田中　朋美	千葉みなとリハビリテーション病院	企業委員

※敬称略、順不同

3）学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会　　日　時：平成30年9月25日（火）13：00 ～ 15：00

場　所：八千代リハビリテーション学院　会議室

第2回委員会　　日　時：平成31 年3月14日（木）13：00 ～ 15：00

場　所：八千代リハビリテーション学院　会議室

4）学校関係者評価の実施方法

平成 30 年度の学校自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

① 自己評価の結果および内容が適切かどうか

② 課題やその解決への方向性が適切かどうか

③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか

④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の項目、内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による 4 段階の評定基準にて実施する。

【評定基準】

S ： 十分に達成している。　（達成度が高い）
A ： 達成している。　（概ね達成しており、明らかな改善は要しない）
B ： 達成がやや不十分である。（若干の改善を要する）
C ： 達成が不十分である。　（不適合がある、明らかに改善を要する）

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンレット・Web サイト等で広く公表し、学生、受験生、関係者、教職員において確認、共有できている。

課題

継続して、教育理念・目標等を反映した教育課程の構築を図る。

今後の方向性、方策など

教育目標等の周知と業界のニーズ把握の双方向から検討を行う。

学校関係者評価委員会からの意見・質疑内容

臨床実習や就職で連携の深いグループ病院のニーズとリハビリテーション業界のニーズが一致して教育に反映されている。

小項目　Ⅰ－1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目　Ⅰ－2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：ホームページ、刊行物等で、広く公表、周知している。

小項目　Ⅰ－3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：臨床実習、就職活動、教育課程編成委員会等から把握した業界のニーズに対応する教育目標や人材育成像を教育課程に反映させている。

項目Ⅱ　学校運営

総括

運営方針に沿って、適正、円滑に学校運営を行っている。

課題

I-pad の導入、ICT 教育推進など、学校運営に関わる情報化システムの構築。

今後の方向性、方策など

I-pad の活用、ICT 教育の状況を分析して、情報システムの修正、構築を推進する。

学校関係者評価委員会からの意見・質疑内容

情報システム化については個人情報保護や電子カルテの導入など、病院業務でも求められるものであり、リテラシー教育も含めて推進することが望ましい。

小項目　Ⅱ－1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：法人および学校毎に運営方針を策定して教職員に周知し、方針に合った業務推進であることを、随時、確認している。

小項目　Ⅱ－2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は、学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い、記録、周知している。

小項目　Ⅱ－3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：学事サーバーによる学事成績や各種情報管理を行い、学生へのメール等による速やかな情報発信、講義や出席確認などを効率的に行っている。

項目Ⅲ　教育活動

総括

卒業で得られる国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。
良好な教育活動ではあるが、更なる改善・向上を目指して取り組みを進める。

課題

2020 年度の理学療法士・作業療法士養成施設指定規則の改訂に向けた教育課程の再編、教員間授業評価の実施、教員個々の指導力育成が課題。

今後の方向性、方策など

カリキュラムの変更申請、教育課程の再編、2020 年度シラバス作成、授業準備を進める。
アクティブラーニングに関する研修会など、教育力向上の取組みを行う。

学校関係者評価委員会からの意見・質疑内容

教員間授業評価の実施とその結果を活用した教育力向上への取組みが期待される。併せて、ファカルティ・ディベロップメントの検討が望まれる。
国家資格取得に向けた教育、指導が適切に行われており、継続を期待する。
教員の専門職としての知識・技能面の研鑽が適切に行われている。併せて、教育力や資質の向上に関する取り組みを期待する。

小項目　Ⅲ－1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：コアカリキュラムに沿って学科や学内委員会にて検討し、教育課程の編成・実施方針を学校運営会議での確認の上で策定している。

小項目　Ⅲ－2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：病院・企業など外部講師によるキャリア教育授業を導入。臨床実習では、学校法人とグループ病院で共同開発した臨床実習システムを導入している。

小項目　Ⅲ－3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：B　■学校関係者評価：適正

■コメント：学生からの授業評価を全科目において実施して評価を行っている。教員間の授業評価は一部科目で試行的に導入しており、次年度に拡充を図る。

小項目　Ⅲ－4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：国家試験の出題基準や頻度等を考慮し、初年次より重点科目を位置付け、カリキュラム構成、授業展開ともに、国家試験を考慮した内容で行っている。

小項目　Ⅲ－5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：専門職であり知識・技能等の修得は十分に行われているが、教育力・指導力については個人の経験に左右される部分が見られ改善すべき課題である。

項目Ⅳ　学修成果

総括

卒業、国家試験、就職、資質向上を目指す教育活動ならびに修学支援を行い、良好な結果が学修成果として表れている。

課題

専門職を目指すモチベーションの維持・向上、能動的学習や生涯教育につながる学修方策のサポート、退学率の低減への取り組みに、更なる充実が必要である。

今後の方向性、方策など

初年次から卒業までの一貫した修学支援、国家試験対策学習の構築を図る。

学校関係者評価委員会からの意見・質疑内容

関東圏では少なかった回復期リハ病床が増え始め、理学療法士の求人は多い。
作業療法士は年間の養成数が理学療法士の1／2と少なく、特に需要が目立っている。
国家試験学習で成績が伸び悩む学生は、精神面も含め、個別的な支援が必要と思われる。
退学防止や留年者のサポートに、モチベーションの維持・向上が望まれる。

小項目　Ⅳ－1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：国家資格取得を前提に求人も多く、求人情報の掲示から就職説明会の開催などの就職活動支援を行い、開校以来 100%の就職率である。

小項目　Ⅳ－2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：国家試験を考慮した授業内容や学習方策、模擬試験の実施、国家試験対策学習を行い、全国平均を上回る合格率を継続している。

小項目　Ⅳ－3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：モチベーションを高める初年次教育、担任制による修学サポートや面談、学生相談室の設置など、退学者の低減を図る取組みを行っている。

小項目　Ⅳ－4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：障害者イベント等の情報提供、教職員の参画・引率、学生のボランティア参加等を行い、それらの学生の社会的活動を把握している。

項目Ⅴ　学生支援

総括

クラス担任制により学生とのコミュニケーションを図り、状況に応じて学生を支援する体制を整備しており、保護者、高等学校等との連携も適切に行っている。

課題

修学支援が求められる場合には、早い段階から相談や支援を行い、効果的な介入を行う体制をとっている。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する学内の報告、連絡、相談を速やかに行い、早期に適切な対応を進めるべく、学生対応に関するガイドラインを設けている。

学校関係者評価委員会からの意見・質疑内容

就職先は医療機関が多い。介護保険施設、その他の領域への就職支援も同様に行っている。
学生の修学支援では、精神面のサポートやカウンセリング含めた支援が必要と思われる。
経済的事由で進路選択や修学を考える受験者・学生へは、奨学金相談窓口や働きながら学べる夜間コースの紹介を行っている。

小項目　Ⅴ－1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：就職支援委員会と担任を中心に支援体制整備し、就職率 100%を継続している。

小項目　Ⅴ－2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：担任の定期面談から、状況に応じて学科責任者との面談を実施する。カウンセリングにも対応できる相談室を月 2 回開設している。

小項目　Ⅴ－3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：文書通知や説明会、保護者面談等により連携を図っている。特に出席や単位取得、進級・卒業に係る面談は原則、保護者同席にて行っている。

小項目　Ⅴ－4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：高校での進路授業やガイダンスへの協力、定期的な進路室訪問等により連携を図り、学校関係者評価委員会を通した取り組みも行っている。

小項目　Ⅴ－5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：教育課程に関わる支援のほか、学生寮や通学定期などの生活面、奨学金相談窓口や特待生制度などの経済面でも修学支援を行っている。

項目Ⅵ　教育環境

総括

施設・設備、臨床教育体制を整備して、学校評価等で確認している。臨床実習については実習病院指導者との会議や教育課程編成委員会においても検討している。

課題

防災体制に関して、総合防災・避難訓練の実施や計画を充実させる。

今後の方向性、方策など

総合防災・避難訓練の実施時期を検討、確実な実施体制を整備していく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

グループ病院と共同開発の臨床実習システムが良好に稼働し、質の高い実習が行われている。専任教員が高頻度で実習病院に出向いて指導する点も充実した臨床実習につながっている。防災体制については、学生が避難訓練や防災活動を具体的に体験することが望まれる。

小項目　Ⅵ－1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：設備、教材、図書等は基準以上であり、自己点検や外部評価で確認して、年度毎に必要な整備を行っている。

小項目　Ⅵ－2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：臨床実習病院と共同開発した実習システムを導入して、指導者や設備などリハビリテーション環境が充実したグループ病院にて、臨床教育を行っている。

小項目　Ⅵ－3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：B　■学校関係者評価：適正

■コメント：防災設備点検・管理、防災訓練等を行い、消防計画や学校保健安全計画等の周知を図っている。

項目Ⅶ　学生の受け入れ、募集

総括

適切な情報提供、学校案内によって理解を得るように努め、入学定員を満たす学生の受け入れにつながっている。

課題

適切な情報提供の継続。

今後の方向性、方策など

入学後にも情報の伝達、周知の状況を把握、高等学校へは入学者の修学状況の報告などの情報提供を行い、連携を深めている。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

高等学校への情報提供、資格取得や就職状況なども十分に伝えられている。

小項目　Ⅶ－1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：進路授業、高校進路室への説明、推薦入試制度等による連携を通して、職種、資格将来性、学校案内、教育課程など、十分な情報提供に努めている。

小項目　Ⅶ－2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：資格取得、就職状況など職業実践専門課程認定に関わる情報公開に加えて、過年度実績、国家試験対策の具体的内容なども広く公表し、オープンキャンパスや問い合わせへの対応などでも説明の機会を設けている。

項目Ⅷ　財務

総括

財務基盤は安定しており、適正な収支計画のもとでの事業推進、会計管理を行っている。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

適正な収支計画による学校運営の継続、安定した入学者募集への取組み。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

良好、適正な状況が確認される。

小項目　Ⅷ－1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：法人で中長期的財政予測を行い、理事会にて法人ならびに各校の財政基盤の安定を確認している。

小項目　Ⅷ－2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：学校法人ならびに学校毎の年度事業計画・予算により、妥当な収支計画のもと、予算執行、事業遂行、会計処理を、法人・学校双方で随時確認している。

小項目　Ⅷ－3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：財務管理に関するチェックを随時行い、定期的な法人本部からの会計管理、外部監査、理事会での審議を行っている。

項目Ⅸ　法令等の遵守

総括

法令等を遵守した適正な学校運営を行い、第三者評価においても認められている。

課題

2020 年度理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂への対応。

今後の方向性、方策など

指定規則改訂に伴い、特にカリキュラム・臨床実習に関する対応を準備して、適正な教育課程を構築する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

専任教員を基準より多く採用し、臨床実習指導や進路情報提供の充実が図られている。
臨床実習に際して、守秘義務、個人情報保護、リテラシー教育が適切に行われている。

小項目　Ⅸ－1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：関係法令、理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に準じて自己点検を行い、学校評価の実施、第三者評価の受審においても確認し適正な運営に努めている。

小項目　Ⅸ－2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：個人情報保護規程に則り、情報は電磁的管理のもとで適正に運用を行っている。

項目Ⅹ　社会貢献・地域貢献

総括

施設の提供、人材の派遣、ボランティア協力を行っている。

課題

社会・地域貢献の機会の確保と継続。

今後の方向性、方策など

社会活動の定着と支援体制を検討して行く。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学校の教育資源の活用、学生のボランティア参加など、教育活動や職業実践につながる地域・社会貢献が行われている。

小項目　Ⅹ－1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：A　■学校関係者評価：適正

■コメント：臨床実習病院、理学療法士・作業療法士職能団体などへの会場提供や講師派遣などの人的協力、学校イベントでの地域公開講座などを行っている。

小項目　Ⅹ－2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：S　■学校関係者評価：適正

■コメント：・毎年、地域の障害者イベントに学校として協力し、教員の実行委員としての参画と学生の引率、学生のボランティア参加を奨励している。その他にも地域ボランティア等を学内掲示により紹介している。

3. 学校関係者評価の総括

1）自己評価の内容は適正である。
2）各評価項目の内容が自己評価に適正に記載されている。
3）自己評価の内容は根拠資料から確認できる。
4）自己評価、学校関係者評価が学校運営に反映されている。
　学校関係者評価より、学校運営ならびに自己評価を適正と評価する。

4. 学校運営に関する意見

医療専門職である理学療法士・作業療法士の養成施設として、職業実践専門課程認定校として、健全で充実した学校運営、教育活動、人材育成、およびその自己評価は適正と認められる。

評価項目の中で「若干の改善を要する」とされた、①教員間授業評価の実施、②教員の教育力・資質の向上、③防災体制の整備、以上の 3 点は次年度の改善策が検討されており、その実現を期待するものである。

以上